

人がつながる「地域と共にある学校づくり」研修講座 実施報告

1 日時	平成28年10月7日(金)	13:15~16:00
2 会場	奈良県立教育研究所(奈良県磯城郡田原本町秦庄22-1)	
3 参加者	165人(教職員、地域コーディネーター、団体・企業等)	
4 内容	13:15~13:20	開会挨拶
	13:20~13:45	講義 「地域と共にある学校づくり」 人権・地域教育課 畑守 伸昭・津浦 和久
	13:50~14:30	ブース展示
	14:35~15:55	講演 「地域の力を学校へ ~学校と地域を結ぶ教職員に求められる役割とは~」 大阪教育大学教育学部 准教授 新崎 国広
	15:55~16:00	閉会

5 講演概要

◇ 学校教育における福祉教育

①心情の育成 ②福祉への知的理解 ③実践的態度の育成

↓

・「協働」「連携」による福祉教育・ボランティア学習の実践

↓しかし

・「協働」「連携」は手段・方法であって、目的ではない。学校・地域・家庭がそれぞれの専門性を生かして事に当たることが重要だが、子どもを取り巻く課題は山積。学校以外のプロの力、地域の支援をうまく活用することも重要。子どもたちの育ちにとってナナメの関係づくり、地域の人の温かいまなざしが重要。



◇ 福祉・教育の共通点

①相手の立場になって考える心…「個別化」=みんな違ってみんないい

②決してひとりぼっちにしない心…人とのつながりの大切さ

◇ 多様な自立を考えよう!

・今までの自立=「自分のことは自分です」→自立≠孤立

・これからの自立(助けられ上手)=「自分でできることは、自分です。ただし、自分一人でできないことは、人の助けを受けても、かけがえのない自分の人生を生き抜く」

☆学校・家庭・地域の協働による福祉教育で「地域の福祉力・教育力」を高めることが重要!

◇ なぜ、今学校と地域の連携が必要か

・現代社会や学校の状況…コミュニティ意識の低下、家庭養育機能の低下、福祉や教育の専門職への依存→児童虐待、子どもの貧困率の増加、いじめ、不登校
※共通するのは社会的孤立、孤独感の増大

・ { 発達としての教育 } それぞれの専門職がナナメの関係づくりを! ⇒ 地域教育もナナメの関係づくり
{ 生成としての教育 }

・「多職種連携・地域協働」→ { 教師と教育支援人材の協働
「チーム学校としての学校」の構築…win-winの関係へ

6 ブース展示概要

様々な団体・企業と関係を作り、各学校での取組に生かしていただくことをねらいとして、団体及び企業等による、教育分野における社会貢献事業の一環として行う出前授業や見学内容等を紹介した。(18団体・企業)

研修講座の参加者は、自由に会場を周りながら、積極的に団体・企業とのマッチングを図っていた。



7 感想

・「連携」「協働」は目的ではなく手段であるという言葉をお聞きし、目的を見失わず、今日いただいたヒントを基に学校経営に当たりたいと思いました。

・「ナナメの関係」、「チームとしての学校」などこれまでも聞いたことがある話題ですが、それがストーンと心に落ちたのがよかったです。

・様々な企業等と連携できることがわかりました。今後、学校での取組にいかせるものも多くあると感じました。

